

## 1 総括についての評価

子どもたちと先生方のがんばりがよく表れており、よい一年であったことがわかる結果だと考える。子どもたちのよいところを伸ばす教育を進めることが大切だと考える。

## 2 年度目標ごとの評価

### 【年度目標：安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を88%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

- ① いじめはどんな理由があってもいけないと考える子どもが増えていることをうれしく思う。割合は少ないが、いじめはいけないに対して否定的な意見の子どももいるので、どのような背景があるてその意見になっているのか、少数の子どもにもしっかりと目を向けていく必要がある。
- ② どの子どもにも、絶対に良いところはある。友達の良いところを見つけて言葉にすること、一日の出来事を思い返してありがとうと伝えることを小学生の頃から続けることができたら、それは大人になったときに大きな財産になると感じる。ぜひ、先生も子どもの良いところを口に出してほめる、子ども同士も口に出して伝えることを大切にしていってほしい。
- ③ 学校に登校することは、学習面はもちろん、子どもの生活リズムや体力の向上のためにもとても大切なことだと考える。
- ④ 自己肯定感がやや低めであるという課題については、田中小出身のプロ野球選手やプロバスケットボール選手にも目を向けることで、大きな目標をもって目の前の小さな目標を積み重ねていけるようになってほしい。良さに目を向け、伸ばすことで、自己肯定感も高まると考える。

### 【年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を50%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を76%以上にする。

- ① 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますと考える子どもが大変多いことに感心した。学校の勉強を、受け身ではなく、主体的に取り組んでいることがよくわかる数値である。
- ② 平均点よりも、その子の得意なことを伸ばしていくことが自信につながり、不得意なことにも良い影響を与えることにつながると考える。学習面でも、得意なことを伸ばしていくような環境をつくっていってほしい。
- ③ 経年調査の運動に関するアンケート結果はそれほど良い結果ではないが、5年生の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果は大変良い結果であった。男子も女子も運動が好きで、学校の体育の授業に全員が前向きに取り組んでいることがよく分かった。5年生には、子ども会活動に参加して運動に親しんでいる子どもも多く、子ども会の指導者もこの結果はとても励みになると考えている。

### 【年度目標：学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Ⅰを満たす教職員の割合を68%以上にする。  
① 教員不足を解消するためにも、働きやすい学校づくりは必要である。しかし、教員はこれをすれば終わりという仕事ではないので、どうしても勤務時間が伸びる傾向にある。

### 3 今後の学校運営についての意見

- ・学年によって学力に差があるのは仕がない。学力平均点の低い学年もあるが、経年で伸びていくことを願っている。
- ・学力平均点が高い学年、運動が好きで運動能力が高い学年など、学年による特色がみられる。子ども一人ひとりみても、得意なことは違うと思うので、得意なこと好きなことを伸ばす教育を推進してほしい。
- ・防災教育について、休日に地域で行ってきた防災学習会については、今年度まで大人を対象としていたが、来年度からは子どもも参加できる取り組みにしていく。学校と協力して、防災教育も進めていきたい。